



常盤海岸等の清掃活動について

宇部市環境衛生連合会常盤支部長

平泉 一城

常盤地区は宇部市の東側から数えて3番目の地区です。この東端の3地区は、今も自然の海岸が残っており、早くから工業化が盛んであった宇部市においては、たいへん貴重な場所となっています。このためこの3地区では海岸を美しく保つため、それぞれ環境美化の活動を積極的に行っています。私共の常盤地区は、かつて炭鉱のあった黒崎海岸と、海水浴場があった常盤駅下から、海ガメの産卵があったと言われる亀浦までの常盤海岸を擁しています。常盤地区環衛連は昭和60年に結成されましたが、その翌年から毎夏清掃活動を実施し、この海岸の美化に代々努めてまいりました。そこで感じている課題を2つ語りたと思います。

一つはゴミ問題です。特に常盤海岸は地形的に上げ潮に乗ったゴミが漂着する場所にあり、毎年2トン以上のゴミが清掃活動にて回収されます。かつては海水浴で賑わったといわれる常盤海岸が、このようなゴミの溜まり場になってしまっていることに、大変心を痛めております。また近年、海洋プラスチックなど海の環境問題が注目されています。こちらの海岸にも沢山のプラスチックゴミが回収されます。皆さんには、海は世界中に繋がっていて、捨てられたプラスチックは何年にも亘って、海を漂ったり、どこかの海岸に辿り着いたりして、決して自然になくならないということを、意識して欲しいと思います。

もう一つの問題は生物多様性です。常盤海岸は海水浴だけでなく、潮干狩りにも多数の市民で賑わっていました。ところが今は全くと言っていいほどアサリの姿を見ることはありません。一体何が起きているのでしょうか？

いくら海がきれいになったとしても、そこに生き物がいないというのは恐ろしいことです。魚など海の生物が激減しているのは、瀬戸内海の全般で起きているそうです。我々市民が危機意識を持ち、専門家や研究者の方々の意見に耳を傾けることが重要と考えます。これ以外にも様々な問題はありますが、海はずっと昔から、私達に恵みと癒しを与えてくれました。そしてそれは今日に至っても変わらないと感じています。皆さんもちょっと海辺まで足を運んで、海を感じてみてはいかがでしょうか。



写真上：常盤海岸西詰清掃中 写真下：清掃後 2023.7.2



【小学生参加者募集！！銀天街であそぼう！】※要申込み まだ空きがあります。

わたし達は、子ども達がそれぞれの個性を活かして力強く生きていけるように、あそびやいろんな体験を通じて成長してくれるような試みに挑戦します。

まずは“だるまさんがころんだ”からスタートし、次に子ども達を中心に何をして遊ぶかを話し合い、みんなで遊びます。ボランティア参加いただくお兄さん、お姉さん方とも一緒に楽しく遊びましょう。

日時：2023年①8/7(月)・②8/21(月) 10時～12時

http://ubekuru.com/uploads/event_file/event_1395.pdf

集合場所：銀天エコプラザ前 詳細・お問合せ：うべ環境コミュニティー事務局 0836-39-8110

今年度は「宇部市SDGs私達の未来共創補助金」いただいて、子ども達や若い方々との交流を深めるべく、SDGsに取り組む高校生Gの実践活動の側面支援として、2回の特別サロンの実施や、「銀天カタリバ」を5グループほど呼びかけて、興味深い本の読後感、動画鑑賞の感想など、様々なやり方で、世代間対話を持ちたいと計画中です。“うべっくる”FBやTw等を通して案内をしてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始



Home Page



facebook



twitter



指定管理者 NPO 法人うべ環境コミュニティー

地域に根差した学習活動を目指して 山口県立宇部西高等学校 教諭 烏田 修二

宇部西高等学校は大正7年4月宇部村立宇部実業補習学校として開講し、昭和28年に山口県立宇部農芸高等学校、そして昭和55年に現在の山口県立宇部西高等学校となり、今年で創立105年を迎えています。地域の皆様には農業学習を主体とした学校としてなじみ深いと思いますが、現在は総合学科として農業学習を含む様々な学習（系列学習）を行い、生徒の幅広い進路希望が叶うよう努めています。学習の選択幅は広がりましたが、地域に根差した取り組みは継続され、本校の特色の一つです。

なかでも、「西高祭」は学習発表、農産物の販売などを通じて多くの方に宇部西高校を知っていただく機会として、地域に定着しています。当日は朝早くから来校され、お目当ての農産物を購入していただきました。生徒たちも生き生きと活動し、来校される方との触れ合いを楽しんでいました。体育館のステージ発表や体験型の講座では、小さいお子さんも一緒になって宇部西高校の良さを感じてもらえたことと思います。

また、近年では、NPO法人うべ環境コミュニティーの浮田先生のお声がけて、ヒヌマイトトンボ（絶滅危惧IB類）の生息場所である厚東川流域の清掃活動を藤山中学校と合同で行い、SDGs教育の一環として取組み、貴重な体験となりました。環境に対する意識づけだけでなく、日ごろの学校生活では見られない生徒の一面を見ることができ、指導する私にとっても大きく成長できる活動でした。

本校は令和6年度から新入学生の募集停止が決まり、令和7年度に最後の卒業生が巣立っていきます。これまで地域に根差した教育、地域に貢献できる人材育成を目標に多くの方に支えられ学校活動を行ってきました。卒業生が宇部西高校で学んだことを生かし、これからの地域を担っていってけると願っています。



写真1 西高祭の様子



写真2 厚南中川河口の清掃活動

太陽光発電の「出力制御」について 市民共同発電うべ 溝田忠人・樋口美香

非営利（株）市民共同発電うべは、宇部市の施策に基づき2017年に市立の4中学校と2018年3小学校にいずれも19.8kWの太陽光発電（合計138.6kW）を設置させていただいています。<https://kyodohatudenube.jimdo.com/>

最近の注目点は、「出力制御」（日照時間帯に電気が余り太陽光発電をカット）の頻発、これにより太陽光発電・売電を行う当社の収入が減るからです。図1に2022年4月～2023年6月の「出力制御・代理制御」が行われた月別の時間と年度合計を示します。今年から急増したことが分かります。

「代理制御」とは、遠隔出力制御装置を装備していない他社の太陽光発電設備の代理に抑制を引き受けることで、損失は後日補填されます。

ただし、10kW未満の家庭用太陽光発電にはこれらの「制御」は適用されていません。電力会社は太陽光発電が急増し昼間の電力が過剰になるので絞る必要があると説明し、国は電力会社に既存の発電設備出力の50%まで、最新設備では30%までに絞るのを求めますが、巨大な石炭火力等は電力の出力調節が困難なようです。

再生可能エネルギーを「出力制御」に使うのは時代逆行です。潜在的には太陽光と風力発電だけでも日本中のエネルギー使用量より多く得られます。過渡期とはいえ電気を無駄にしない電力量制御には、例えば、以下の様な方法があります。揚水発電、他地域・企業との電力融通、農業用ハウス、ビル空調などの温水・冷水貯蔵、蓄電池、水素製造・貯蔵・燃料電池発電、電気自動車との電気の融通、耕

運機・トラクターなど農業機械の電化、漁船動力の電化、水素還元製鉄など。これらの幾つかは進んだ国ではかなり取り組まれています。

これぞSDGsです。化石燃料や原子力を使わない近未来を想像し、日本が化石賞大国、ガラパゴス化などと言われないために、取り組むべき壮大な未来が描ける課題です。

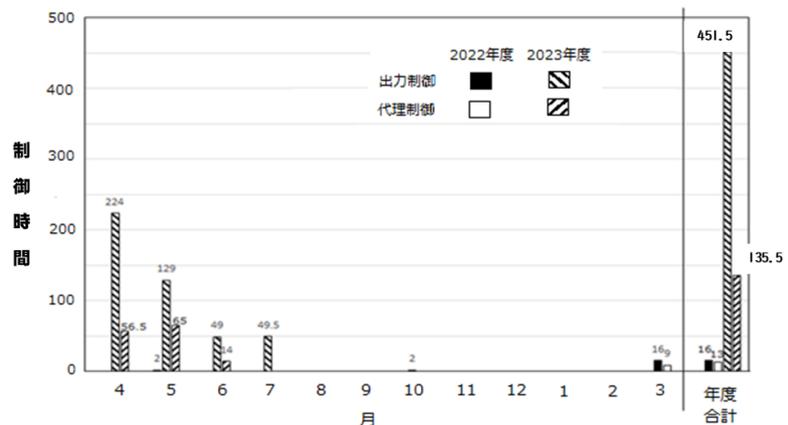


図1 2022年度と2023年度6月までの中国電力による、市民共同発電うべの保有する7校発電所（計138.6kW）への出力制御・代理制御の実施時間、10月の2時間は2022年の代理制御時間